映画『あなたのために』
―アメリカに教訓はいらないか―

『あなたのために』
～ Where the Heart Is ～

アメリカ公開　2000年4月、日本公開　2001年
監督　マット・ウィリアムズ
主演　ナタリー・ポートマン
出演　アシュレー・ジャッド
原作　『ビート・オブ・ハート』文春文庫 Billie Letts著

ビリー・レッツの小説、『ビート・オブ・ハート』を映画化し、2000 年にアメリカで公開された作品。ナタリー･ポートマン演じる、17 歳のノヴァリーはミュージシャン志望のどうしようもない恋人、ウィリー・ジャックとの間に子供を授かり、明るい未来を夢見ていた。ある日、二人は車に乗ってカリフォルニアへと出かけるが、ノヴァリーはトイレに立ち寄ったウォルマートで、恋人に置き去りにされてしまう。行き場所を失ったノヴァリーはそのままウォルマートにこっそり住み、店の中で子供を産んでしまう。しかし、このことが話題となり、ノヴァリーはたちまち有名人になる。彼女は小さな町でたくさんの心優しい人たちに出会い、そして助けられ、自分の居場所を見つけてゆく。独りぼっちの女の子から、たくましい一人の女性へと成長していく様子を描いた心温まるストーリー。

『あなたのために』を見て
―困難を乗り越える強さ―

千 葉 紗 里 衣

この映画を見て、一番惹かれたのは主人公が持つ“強さ”である。子供を授かり、これからパートナーと共に歩んでいこうとしていた矢先に、デパートに置き去りにされてしまう。もし自分がこんな状況に置かれたら、前向きに生きていくなんてことはできないような気がする。しかし、主人公のノヴァリーはこんな状況に置かれても決して涙を流すこともなく、弱音を吐くこともなくたくましく生きていこうとする。わたしは、たとえ試練にぶつかったとしても頑張って生きていこうとするノヴァリーにとても感動した。そして、子供を産んでからは一層強くなったように見えた。これは子供を持つ母の強さのように感じた。わたしにはない母親の強さであるから、この主人公から“強さ”というのを感じるのかもしれない。自分だけでなく、守るものが一人ふえるというのは人にとってとても大きいものなんだなと思った。

もう一つこの映画をみて良いなと思ったのは、主人公のノヴァリーが困っているときに一生懸命助けてくれる温かい人たちである。いい人とは言えない人たちに散々な目にあわされる映画の前半の話とは対照的に、後半になると周りにいる様々な人が助けてくれる。その上、ノヴァリーの友達のレクシーも、男にひどいことをされたけど最後には子供思いの素晴らしい男性に出会えた。これは自分を信じてまっすぐ生きていれば最後は報われるということだろう。わたしはそのように感じた。この映画は生きる喜びを教えてくれる。だからこそ、この映画は、何か試練にぶつかっている人や、もうどうしよもなく立ち直れないと思うような壁にぶつかっている人に見てほしい映画だと思った。もし、一人では耐えられなくて、周りに信頼できるような人なんていないと思ってしまっている人に見てもらい、世の中そんなに悪い人だけじゃなくて、いつかきっと、壁を乗り越えられる時が来るし、助けてくれるひとが現れるという気持ちを持てるような気がする。

『あなたのために』から

谷　　翔 太

まず、映画『あなたのために』を鑑賞して思ったことは、ナタリー・ポートマン演じるノヴァリーは周りの人たちの温かさに恵まれているな、と思った。その恵まれた環境の中で、この作品で中心的に扱われているテーマは「嘘」と「女性の強さ」と感じた。

子どもを妊娠していて、付き合っている相手に捨てられてもめげずに必死に生きる彼女の姿がとても強く見えた。子どものために生きようとする姿から、男性よりも子どもに対する真摯な姿が見え、女性にとっての子どもの存在というものは、やはり非常に大きいものであると感じた。また、やはり作中にでてきたノヴァリーの友人も子だくさんであり、はじめはシングルマザーという役で、様々な苦難を乗り越え明るく前向きに生きてていったというという点からも、女性の強さ、また子どもの存在というものを一つのテーマにしていると感じた。

また「嘘」というものもテーマになっていると感じた。ノヴァリーは作中にフォーニーに愛してはいないという嘘をつく。しかし、それは嘘で、自分を捨てた元彼のところに見舞いに行き、嘘と自覚し、それを伝えに行く。本当に思っていることは伝えることができない。それが後悔する嘘であっても嘘をついてしまう、そのような人間の心情をこのシーンで表現しているのかな、と思った。

『あなたのために』
―*Where The Heart Is*　心臓？心？―

黒 田 勇 人

私がこの映画を観た感想は、浮き沈みがあってこその人生だ。また、人生は何が起こるか分からないからこそおもしろいのだという印象を受けました。ノヴァリーは妊娠して幸せな家庭を築くために、ミュージシャンを目指す男と旅立つが、ウォルマートに置き去りにされてしまう。ウォルマートで出産する際に、窓をぶち破って出産を助けたフォーニー。それによって有名になったときに送られてきた援助の手紙。ウォルマートの社長から贈られた500ドルを持ち逃げした母。行くあてもないノヴァリーを家に連れ帰ったシスター・ハズバンド。こうした不運な出来事と幸運な出来事とが繰り返し起こるのだから、下を向いて生きてはいけないのだ。まさに、「人間万事塞翁馬」といったところだろうか。これがこの映画の最大のメッセージだと思った。

ここで、より詳しく映画を研究していくために、まずはタイトルに着目してみた。もちろん注目すべきは原題である。『Where the Heart Is』。まずは「心臓のある場所」と訳してみる。すると、映画の冒頭での車に乗っているシーンでのノヴァリーのセリフが思い出される。運転している男に向かって、自分のお腹を触りながら「小さな音でトクトクって。心臓の場所よ。これがおそらく表面上のタイトルの意味であろう。このセリフは最後にその男が事故に遭う寸前にも思い出している。時間的な間を空けて、２回登場しているセリフはこれだけである。製作者の意図がうかがえる。

タイトルにはもう一つの意味がないだろうか。そこで次には、「心の場所＝心が落ち着く場所」と訳してみる。すると、ウォルマートでの６週間にしろ出産後の病院にしろノヴァリーにとってあまり居心地の良い場所ではなかった。後半にシスター・ハズバンドから遺産を受け取った後、新しい家で最終的に暮らしていくことになる。そう考えていくと、ここがノヴァリーはようやく心安らぐ場所を見つけたのだということかもしれない。

いずれにしろ、邦題の『あなたのために』はどういった経緯でつけられたのかは分からないが、正直あまり納得できなかった。

ところで、ノヴァリーは子どもに、「アメリカス」と名付けたが、この名前には何か込められた意味があったのだろうか。映画の中では、最初彼女は別の名前を付ける気でいたということが分かる。しかし、カメラマンにもっと意味のある大きな名前を付けるべきだと忠告されたが、結局この「アメリカス」という名前を選んだ。そこで、私はAmericusの意味を探ってみることにした。すると、それには非常におもしろい意味があった。アメリカ大陸を発見したことで知られている、アメリゴ・ヴェスプッチの「アメリゴ」をラテン語読みすると、「アメリカス」になるようだ。アメリカ大陸発見者のラテン語読みと同じであることはおそらく偶然ではないだろう。大きな意味のある名前にしようと考えた結果このような偉人に因んだわけである。それだけ歴史に多大な功績を残すほどに成長してほしいという願いがあったのだろう。さらに、ノヴァリーの名前はNovalee Nationという。Nationということにも関連しているのだろうか。「国」という意味と関連付けて「アメリカス」と名付けたのだろうと推測出来る。

次に考えたのは、映画で何度も出てきた不吉な数字５。５歳のときに、捨てられたり、怪我をして55針縫ったり、ウォルマートでの買い物のお釣りが５ドル55セントだったりと一貫して不運なことが起こる伏線として５が用いられていた。そこで５を不吉な数字だとする国であったり、宗教であったりを調べてみたが、残念ながらそういった例は見つからなかった。しかし、詳しく調べると、原作ではその不吉な数字は７であったらしい。どうして映画では５を使ったのだろうか。７は一般にラッキーセブンと言われていて反対に幸運の象徴とされているため、それをあえて不吉な数字として使ってもおもしろかったのではないかと感じた。物語だからという単なる理由で伏線として使ったとは信じたくないが、日本人の我々には縁のないような、何か裏に意図することがあったのだとすると、非常におもしろい作品と感じた。機会があれば、その他の数字で日本人の感覚とは異なる、不吉な数字が存在しているかということも詳しく調べてみたいと思った。

ストーリー自体はウォルマートで結婚式をあげてハッピーエンドであったが、ノヴァリーの友人が５人目の子どもを産んだことでまた、不幸な出来事が起こるのではないかと観る人の想像を掻き立てる終わり方もよかったのではないかと感じた。

最後に、５を使うことでストーリー展開を想像させたり、前向きに一生懸命生きていこうとするノヴァリーの様子を描いたりと小説では表せない部分もあったので、感情移入してしまうことも多かった。また、友人へのノヴァリーのセリフで、「私たちの人生は小さなことですぐに変わる。過ぎたことは忘れてしまえばいい。」と励ます姿は強く、たくましく観る人へ教訓を与えてくれているようだった。こうした一つひとつのセリフを表情やしぐさを通して感じられるのも映画の良い点だと改めて思った。

『あなたのために』
―全ての“あなた”に贈る物語―

寺 村 友 樹

誰しも、人生において様々な困難、辛い経験、悲しい出来事に、その程度は別にしても、多かれ少なかれ直面したことがあるだろう。そしてそれらはどんなに意識し、回避しようとしても必ず訪れる。どんなに裕福な人間であろうが、どんなに秀才であろうが不可避である。では人はどのようにそれらと向き合い、乗り越えていくのだろうか。様々な方法が人それぞれあるだろうが、解決の大きなきっかけとなるのは、人と人との触れ合いであり、人の優しさではないだろうか。そんな人の優しさによって困難や悲劇を乗り越えていく姿を印象的に、鮮やかに描いたのがこの『あなたのために』である。

舞台はオクラホマの小さな田舎町であり、実際の撮影地はテキサス州のオースティンである。各シーンの背景に常に映し出されているのは、アメリカらしい果てしなく広がる荒野、大きな建物のない小さな町、のどかな風景である。この刺激的でない背景は、登場人物達の感情の変化、心の触れ合いを鮮やかに際立たせる。見るものは自然に登場人物の動きや発言に引き込まれ、感情移入することができるのである。

そんな舞台で描かれる登場人物達には、思わず笑ってしまいそうになるほど不幸な出来事が、それも立て続けに起こる。一般的に見ると悪役的なポジションに置かれており、主人公の悲劇の要因ともなるウィリージャックとて例外ではない。物語はそんな登場人物たちの中で、ノヴァリーという若くて世間知らずな少女が、周囲の人間の優しさや手助けにより、次々に襲いくる困難を乗り越え成長し、自らの手で運命を切り開けるように変わっていく。物語の中で彼女に起こる出来事、人との関わりは、住む環境も人種も違う私たち日本人にとっては、それはアメリカ人にとっても同じかもしれないが、それほどリアリティがあるとは言い難い。それでもこの映画に描かれている穏やかな心の触れ合いは、私たちの心にすんなりと入ってくる。それは製作側の意図や工夫により見る側が誘導されているという捉え方もできるし、間違いではないだろう。しかし私は、この映画で描かれているテーマが非常に身近で親近感があるということが非常に大きな要因となっていると確信する。

はじめにも述べたように、不幸や悲劇は誰にでも起こり得る。現実ではあり得ないようなハプニングにも、人と人とのつながりという非常に現実的な手段でそれを乗り越えていく人々を明るく、のびのびと描いたこの作品は、老若男女問わず全ての人に少なからずポジティブな印象を与えてくれるだろう。今実際に困難に直面している人はもちろんであるが、そうでなくても元気をもらえる作品であることは間違いないだろう。

独りじゃない
―『あなたのために』繋がるストーリー―

杉 本 裕 一

『あなたのために』（原題：Where the Heart Is）は、2000 年に公開された映画で、ビリー・レッツが 1995 年に出版した同名の小説（邦題『ビート・オブ・ハート』）を原作としている。

主人公のノヴァリー・ネイション（ナタリー・ポートマン）は、17 歳にして赤ん坊を身ごもっており、恋人のウィリー（ディラン・ブルーノ）とカリフォルニアへ行く途上、スーパーマーケット・ウォルマートに立ち寄っている間に逃げられてしまう。行く当てのない彼女はウォルマートに寝泊まりすることを決める。途方に暮れているとき、シスター・ハズバンド（ストッカード・チャニング）という女性に出会い、幸せを呼ぶとされるトチノキをもらい受ける。育て方を調べるために向かった図書館で、寡黙な青年・フォーニー（ジェームズ・フレイン）に本の読み方を教えてもらう。数週間後、誰もいない夜のスーパーで陣痛・破水に見舞われる。そこへ窓ガラスを破って入ってきたフォーニーに助けられ、無事に赤ん坊・アメリカス（マッケンジー・フィッツジェラルド）を生む。身寄りのない母と子を、いわゆる「ママ友」のレクシー・クープ（アシュレー・ジャド）をはじめとする町の人々の温かさが包みこみ、ノヴァリーはそれを受け取って成長していく―。

全編を通して繰り返される、シスター・ハズバンドの家に住む人々の名前に注目したい。そもそも Husband という単語は「夫」という意味がある。未婚の母であるノヴァリー、レクシーにとって、なにより子供の父親代わりとなってくれるという意味を含んでいるのだろう。主人公の Novalee Nation は、国家。その娘の Americus、はもちろんアメリカ。彼女の横をいつも支えている親友・Lexie Coop は、協力（Cooperation。Coop では小屋とも）といった意味がそれぞれある。この映画で、ノヴァリーははじめ恋人に捨てられ、親にも捨てられ、愛情を知らずに 17 歳の未婚の母となる。けれど、アメリカの名を冠した娘を産んでからは、その周りにやさしく、まさに協賛（Coop）するような人々がたくさん集まる。「世の中そんなに甘くない」とついどこかで思ってしまうほど美しい人間模様が描かれており、どんなにひどい目に遭っても、信じれば、幸せはやってくる。物語の序盤で手渡されるトチノキは丈夫で、成長すれば 25 メートルもの巨木になるという。巨大になっていくであろう苗木を、ノヴァリー・ネイションという人物が受け取り、映画の終盤までその存在感を示していることは、彼女の成長物語として一つのキーポイントになっているといえる。

一人で何もかも抱え込んで、生きていくことなどできない。ノヴァリーはたくさんの幸せをあたえてもらうことでそれを学ぶが、何も与えられない人だって、いずれそのことを学ぶ。声を上げれば、いつだって誰かが応え、手を差し伸べてくれる。そう、あなたのために。